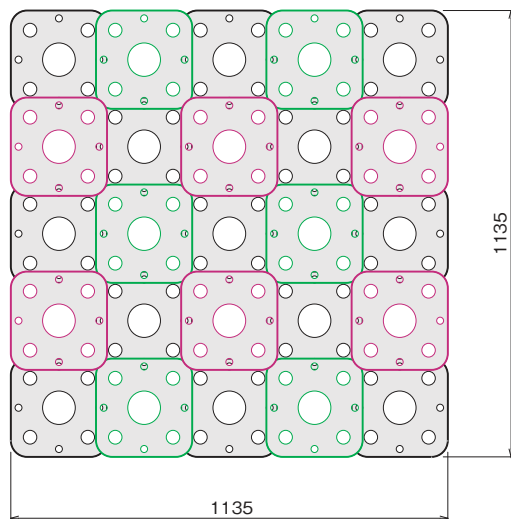


9. 構成荷姿

●縦5×幅5



10. メンテナンス

- 使用前に各部を点検し、異常がないか確認してください。
- 各部の変形、亀裂、曲がり、部品の脱落、及び腐食等の異常がないか確認してください。
- 軽量四角支柱を保管管理する場合は、次によるものとする。
- 各部の点検を行い、その部分を取り替えるなどの対応をするかメーカーに相談の上、適正に整備・修理してください。
- 重量物を製品の上に乗せて保管しないでください。製品の曲がり、変形等の原因になります。

※経年により、ジャッキ等の動きが悪い場合は、潤滑剤等を使用すると動きが良くなり、小さな力でジャッキの高さを調整することができます。
ジャッキ使用の前に、使用することを推奨します。

製造・発売元



中央ビルト工業株式会社 本社 〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11番12号
営業部 TEL 03-3661-9635 FAX 03-3661-1867

関西支店 06-6203-7271 九州支店 092-932-3888 札幌営業所 011-662-1527 北陸営業所 076-265-5239
中部支店 052-238-3351 東北支店 0223-33-8288 広島営業所 082-221-3122

軽量四角支柱 取扱説明書



● 目次







1. 安全上の注意	2~4
2. 各部の名称	5
3. ユニット柱・ジャッキ・梁受金具 ボルト接続方法	6
4. 組立手順	7~12
5. 玉掛け方法	13
6. 使用方法	14~20
7. 組合せ表	21
8. 構成部材	22
9. 構成荷姿	表4
10. メンテナンス	表4

1. 安全上の注意

軽量四角支柱は、支保工材として使用します。

誤った使用をした場合、倒壊などの重大な事故につながる可能性がありますので、ご使用の際は、取扱説明書をよく読み、正しく安全上の注意を守ってください。

絵表示について

 警告	取り扱いを間違った場合に、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	取り扱いを間違った場合に、人が傷害を負うか、または物的傷害の可能性を示しています。
 警告	設計荷重以上の荷重をかけない 軽量四角支柱の許容荷重は20t/本(196kN/本)です。許容荷重以上の荷重がかからないようにしてください。許容荷重以上の荷重がかかった場合、軽量四角支柱が破壊、倒壊する可能性があります。
 警告	必ず鉛直に設置する 軽量四角支柱は、必ず鉛直で使用してください。斜めに設置された場合、軽量四角支柱が破壊、倒壊する可能性があります。
 警告	規格の組合わせ以外では使用しない 規格の組合せ以外で使用した場合、必要な強度が得られない可能性があります。
 警告	基礎をしっかりする

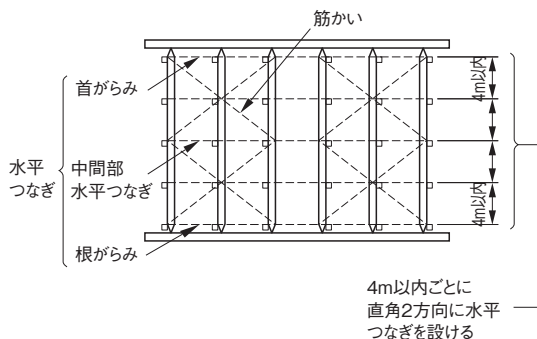


警告

必ず水平つなぎ・筋かいを設置する

水平つなぎを高さ方向4mピッチ以内ごとに直角2方向に設け、水平つなぎ端部を堅固なものに突き当てる等して、水平変位を防止してください。

筋かいは、水平つなぎと支柱との交点近くを始点とし、別の交点を経点とするように設けてください。水平つなぎ・筋かいをとらない場合、軽量四角支柱が破壊、倒壊する恐れがあります。



警告

ジャッキの調整高さを守る

ジャッキの使用長は、260~550mmです。調整範囲以外で使用すると所定の強度が得られず、倒壊する恐れがあります。



警告

改造・変更をしない

設計された強度が満たせない恐れがあります。軽量四角支柱は絶対に改造・変更をしないでください。



警告

玉掛けする場合は、ユニット柱本体を吊上げる

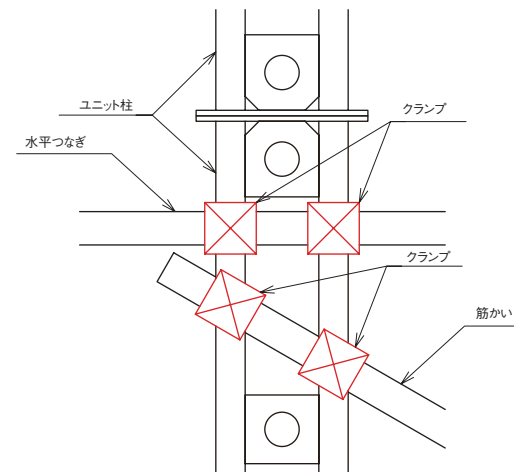
ジャッキに荷重がかかると、ジャッキが破損する可能性があります。



警告

根がらみ・首がらみ・水平つなぎ・筋かいには、φ48.6×2.4の鋼管を使用し、緊結金具を使用する

図のように、緊結金具を使用し、ユニット柱に2ヶ所固定してください。



注意

ジャッキハンドルをハンマーでたたかない

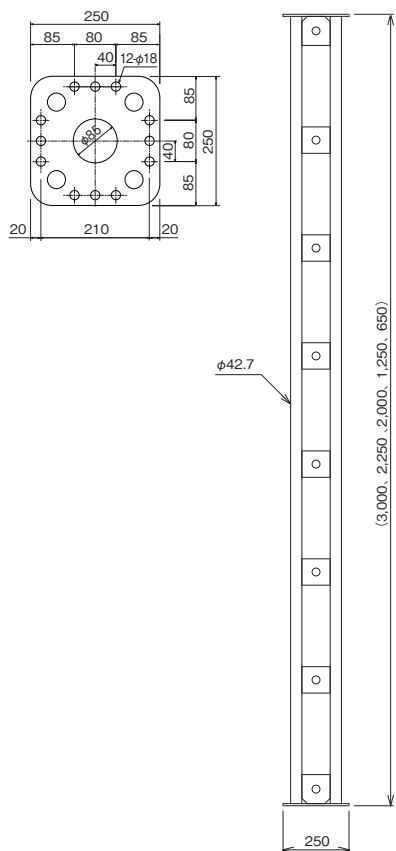
ハンドルをハンマーで叩くとハンドルが折れる可能性があります。

KURE5-56 (呉工業株式会社) 等、潤滑剤を使用すると、比較的小さな力でジャッキハンドルを回転させることができます。

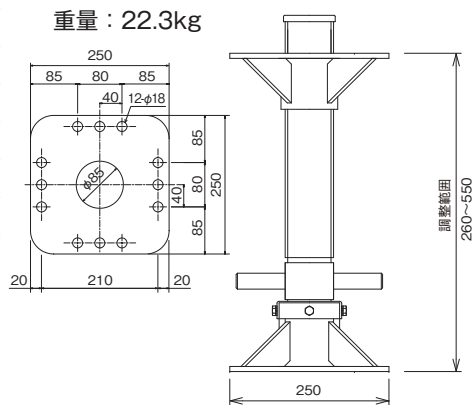
2. 各部の名称

ユニット柱

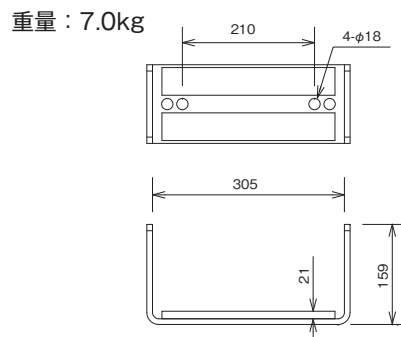
軽量四角支柱	長さ	重量
SSL-300	3,000 mm	41.8kg
SSL-225	2,250 mm	33.5kg
SSL-200	2,000 mm	31.1kg
SSL-125	1,250 mm	22.1kg
SSL-65	650 mm	14.1kg



四角支柱ジャッキ (SSJL-55)

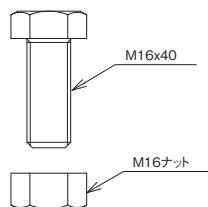


梁受金具 (SSUL-31)



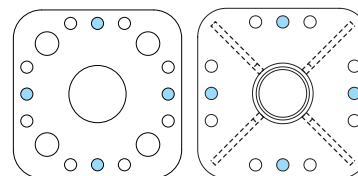
ボルト

重量：0.14kg (ボルト、ナット1セットあたり)



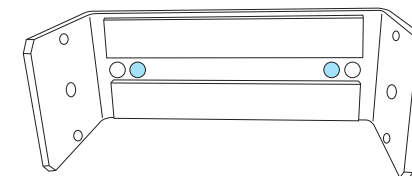
3. ユニット柱・ジャッキ・梁受金具 ボルト接続方法

● ユニット柱・ジャッキのボルト取付位置



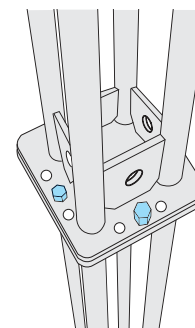
● ボルト接続位置

● 梁受金具のボルト取付位置

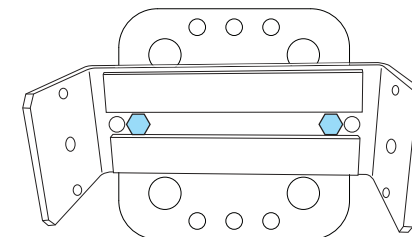


● ボルト接続位置

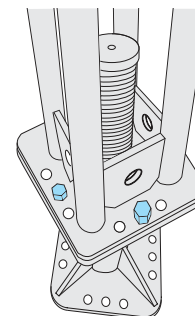
● ユニット柱とユニット柱の接続



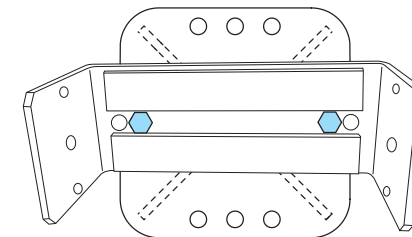
● ユニット柱と梁受金具の接続





● ユニット柱とジャッキの接続



● ジャッキと梁受金具の接続



4. 組立手順

軽量四角支柱組立作業		◎:安全のポイント(除去・低減策) ⇄:危険・有害要因
区分	作業の手順と安全のポイント	留意事項 (危険・有害要因、その他)
組立作業	<p><軽量四角支柱組立方法詳細></p> <ol style="list-style-type: none"> 建て込み位置を決定 <ul style="list-style-type: none"> 図面を確認し、位置を決定してください 縦横が通るように気をつけて位置を決めてください 敷鉄板等を所定の位置に配置 <ul style="list-style-type: none"> H鋼・敷鉄板等を敷く方法をとるか、コンクリート基礎を設け沈下しないようにしてください 必要な材料を配置 <ul style="list-style-type: none"> ユニット柱、四角支柱ジャッキ、梁受金具、ボルト、ナットの必要量を配置してください 作業に支障のないように並列に並べてください ユニット柱と四角支柱ジャッキの接続(最下部に四角支柱ジャッキを設置する場合) <ul style="list-style-type: none"> M16×40 ボルト・ナットで各面の中央の穴に1ヶ所ずつ、計4ヶ所緊結する 	<p>作業を行う場合は、作業床を設け関連法令に従って作業を行ってください</p> <p>⇄地盤沈下によるユニット柱の転倒</p>
	 <ol style="list-style-type: none"> ユニット柱を建てる <ul style="list-style-type: none"> ◎ 1人作業は行わないでください 	<p>⇄ユニット柱の転倒</p>

軽量四角支柱組立作業		◎:安全のポイント(除去・低減策) ⇄:危険・有害要因
区分	作業の手順と安全のポイント	留意事項 (危険・有害要因、その他)
組立作業	<p>6) ユニット柱同士に水平つなぎを設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニット柱に、単管パイプと直交クランプでレベルを出しながら、根がらみ・水平つなぎを取付けてください  <ul style="list-style-type: none"> ユニット柱にクランプのナット締付をする場合、クランプの締付部がジャッキのネジ部の邪魔にならない位置に固定してください  <ul style="list-style-type: none"> 水平つなぎは高さ4m毎に直角2方向に設け、ユニット柱の継手に近い所に設けてください 原則、水平つなぎは直交クランプで2ヶ所、筋かいは自在クランプで2ヶ所支柱に取付けてください(強度計算によって確認してください) ユニット柱が、必ず垂直になるように組立を行ってください ユニット柱の間隔は、原則3m以内にしてください クランプは350kgf・cmのトルクで締付してください ◎ 1人作業は行わないでください ◎ 2m以上の作業になる場合は、作業床(枠組足場・ローリングタワー・高所作業車等)を設けてください  <p>以降同様にユニット柱に根がらみと水平つなぎを取付け、1段目を組立てください</p>	<p>⇄ユニット柱の傾き・よじれによる転倒</p> <p>⇄ユニット柱の転倒 ⇄墜落・転落する</p>



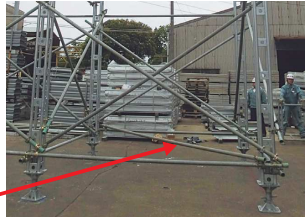
軽量四角支柱組立作業

◎:安全のポイント(除去・低減策) ⇨:危険・有害要因

区分	作業の手順と安全のポイント	留意事項 (危険・有害要因、その他)
組立作業	<p>7) ユニット柱に単管パイプと自在クランプで、筋かいを取付けてください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユニット柱にクランプのナット締付をする場合、クランプの締付部がジャッキのネジ部の邪魔にならない位置に固定してください ・ 筋交いは、ユニット柱と水平つなぎとの交点近くから設置し、一層上のユニット柱と水平つなぎとの交点近くを終点となるように設置してください ・ 原則、水平つなぎは直交クランプで2ヶ所、筋かいは自在クランプで2ヶ所支柱に取付けてください(強度計算によって確認してください) ・ 筋かいは、通常ユニット柱1本につき、2本の筋かいを取付けます <p>◎ 1人作業は行わないでください ◎ 2m以上の作業になる場合は、作業床(枠組足場・ローリングタワー・高所作業車等)を設けてください</p>	<p>⇨機材の落下 ⇨墜落・転落する</p>
	   <p>各面に筋交いを交さ2方向設置してください</p>	



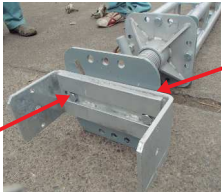
軽量四角支柱組立作業

◎:安全のポイント(除去・低減策) ⇨:危険・有害要因

区分	作業の手順と安全のポイント	留意事項 (危険・有害要因、その他)
組立作業	<p>8) 上部にユニット柱をジョイントする場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M16×40 ボルト・ナットで各面の中央の穴に1ヶ所ずつ、計4ヶ所緊結する ・ ユニット柱は、必ず垂直になるように組立を行ってください ・ ボルトはしっかり締付て固定してください <p>◎ 2m以上の作業になる場合は、作業床(枠組足場・ローリングタワー・高所作業車等)を設けてください</p> 	<p>⇨墜落・転落する</p>
	<p>9) ジョイントしたユニット柱に水平つなぎ、筋かいの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6)・7) 作業手順と同様に行ってください <p>◎ 2m以上の作業になる場合は、作業床(枠組足場・ローリングタワー・高所作業車等)を設けてください</p> 	<p>⇨墜落・転落する</p>
	<p>10) 水平筋交いを設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ねじれを防止する為に、水平筋交いを1層おきくらいを目安に設けてください <p>◎ 2m以上の作業になる場合は、作業床(枠組足場・ローリングタワー・高所作業車等)を設けてください</p>  <p>水平筋交い</p> <p>以降は繰り返し必要な高さまで組立てください</p>	<p>⇨墜落・転落する</p>



軽量四角支柱組立作業

◎:安全のポイント(除去・低減策) ⇄:危険・有害要因

区分	作業の手順と安全のポイント	留意事項 (危険・有害要因、その他)
組立作業	<p>11) ユニット柱最上部に四角支柱ジャッキを設置する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M16×40 ボルト・ナットで各面の中央の穴に 1ヶ所ずつ、計 4ヶ所緊結する ・ ボルトはしっかり締付て固定してください ・ 最上部のユニット柱の上部には、首がらみ（水平つなぎ）を取付けてください <p>◎ 2m以上の作業になる場合は、作業床（枠組足場・ローリングタワー・高所作業車等）を設けてください</p> 	⇄墜落・転落する
	<p>12) ユニット柱最上部に梁受金具を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボルトに取付ける方向があります梁受金具側がボルト、ジャッキ側にナットを取付けてください ・ ボルトはしっかり締付て固定してください <p>◎ 2m以上の作業になる場合は、作業床（枠組足場・ローリングタワー・高所作業車等）を設けてください</p>   <p>ジャッキ側にナット</p> <p>梁受金具側にボルト</p>	⇄墜落・転落する

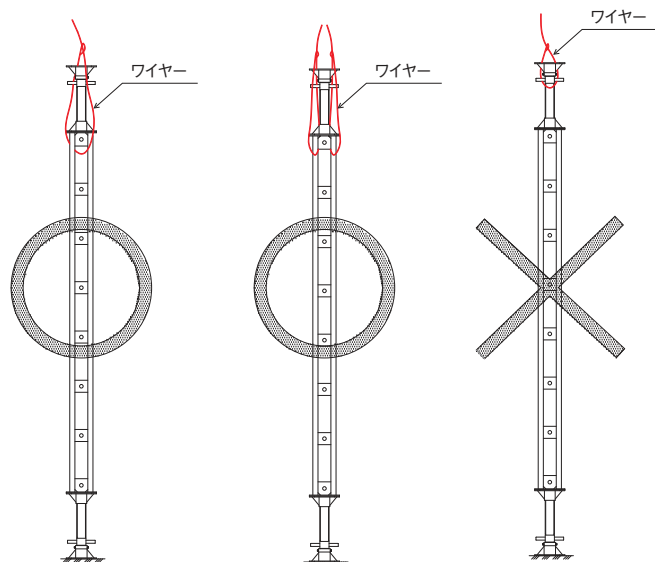
軽量四角支柱組立作業

◎:安全のポイント(除去・低減策) ⇄:危険・有害要因

区分	作業の手順と安全のポイント	留意事項 (危険・有害要因、その他)
組立作業	<p>13) 四角支柱ジャッキの高さ調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 2m以上の作業になる場合は、作業床（枠組足場・ローリングタワー・高所作業車等）を設けてください 	⇄墜落・転落する
	<p>14) 梁受金具に、大引き材を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大引き材は、ユニット柱 3 本以上にまたがるように配置してください ・ プルマン等で、確実に大引き材を固定してください <p>◎ 2m以上の作業になる場合は、作業床（枠組足場・ローリングタワー・高所作業車等）を設けてください</p> 	⇄墜落・転落する
	<p>15) 完成</p> 	
	<p>16) 解体作業は組立作業の逆に行ってください</p>	

5. 玉掛け方法

- 玉掛けする場合は、下図のようにユニット柱にワイヤー等を掛けてください。
- ジャッキ等には、絶対に掛けて使用しないでください。



6. 使用方法

組立上の注意事項(その1)

重荷重を支持するのに十分耐え得る強固な基礎を設け、枠組支柱のような自立性がないので高く組み立てる場合は、ジョイント部の折れに注意し水平つなぎ材と筋かい材を設けて安定を確保しながら組み立てていく必要がある。支柱上部のはり、大引きなどは梁受金具にボルトなどで固定し滑動しないようにしなければならない。

組立に先だち組立図を作成し、その図面に基づいて組み立てなければならない。

支保工全体が転倒しないように検討してください。

1) 基礎

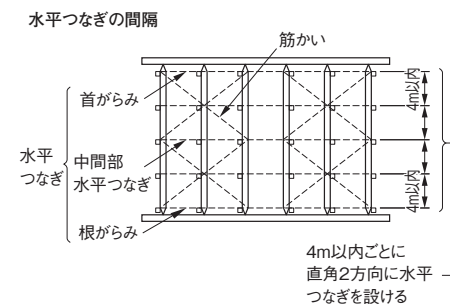
- ① 地盤上に直接建てることはいけない。通常、地盤を突き固めて平らにならし、H鋼や敷鉄板を敷く方法をとるかコンクリート基礎を設け沈下しないようにする。
- ② わき水や雨水がたまる所は、十分な地耐力があっても表面が局部的にゆるむ場合も多いので排水を考慮する。

2) ユニット柱

- ① 支柱の脚部が滑動しない措置をとること。
- ② 支柱脚部には、直角2方向に足場用鋼管とクランプで根がらみを設ける。
- ③ ユニット柱は、その継手で折れが生じやすいので注意し、水平つなぎ材と筋かいを設けるときに折れを直しながら真直ぐ組み立てる。
- ④ 高さが4mをこえる場合は、高さ4mごとに直角2方向に水平つなぎを設ける。
- ⑤ 水平つなぎ材は、ユニットの継手に近い所に設ける。
- ⑥ 支柱の安定性向上のため、はり、大引きや水平つなぎの両端を壁、橋脚などに固定し安定をはかる。
- ⑦ 筋かいは、水平つなぎと支柱との交点近くを始点とし、別の交点を終点とするように設ける。
- ⑧ 水平つなぎおよび筋かいに鋼管を使用する場合は、その取付けにクランプを使用し番線は使用しない。
- ⑨ 支柱のねじれ変形の防止に水平筋かいを設ける。

3) 梁受金具

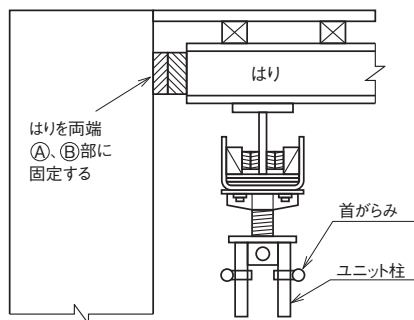
- ① はりおよび大引きの固定には、支柱専用の頭部梁受金具などを用いて固定する。
- ② 型枠が傾斜している場合、水平力によりまたは大引きが滑動を起こすので特に強固にボルトなどで緊結する。
- ③ はりまたは大引きは、少なくとも支柱3本以上またがせる。



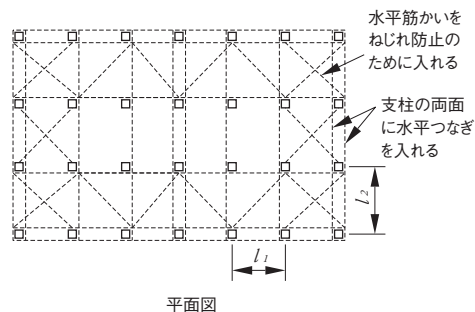
組立上の注意事項(その2)

1) 等間隔に支柱を配置する場合

平坦な厚い床板を受ける場合、縦横方向に l_1 、 l_2 の等間隔に支柱を配列する。

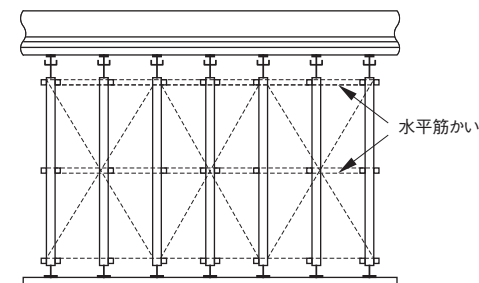


はりを橋柱に依託



平面図

- イ) はりなどを堅固なものに依託することを考える。(安定性の確保)
- ロ) 堅固なものに依託できない場合は、水平つなぎ、筋かいを直角2方向に設ければ、縦横方向の構面は水平つなぎ、筋かいで水平力に対し十分抵抗できる構造とする。
- ハ) 筋かいは、縦横方向に対称に配置する。
- 二) 水平つなぎは、同一平面にかつユニット柱支柱の両面に設ける。
- ホ) 支持する荷重によって支柱の間隔を大きくすることができても、水平つなぎ、筋かいが座屈しては何もならないので、支柱の間隔は3m以内に配置する。
- ヘ) 支柱頭部に水平力が生じ、支保工全体のねじれを防止するため支柱頭部と中間部に水平筋かいを有効に設ける。
- ト) 支柱頭部に梁受金具を取り付け、はりを取り付ける。

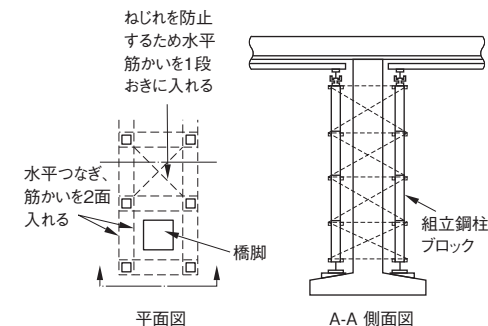


側面図

2) 独立柱の回りに配置する場合

独立した部分の柱などがある場合には、橋脚を囲んで建てる方法をとる。

- イ) はりなどを堅固なものに依託することを考える。
- ロ) 堅固なものに依託できない場合は、水平つなぎ、筋かいをユニット支柱2面に設けることが望ましい、1面では自在クランプの強度(許容強度3.43kN(350kg))が不足する場合が多く、水平つなぎ筋かいを2面設けたほうがよい。
- ハ) 軽量四角支柱が同一面に連続して配置されている場合、水平つなぎ、筋かいを連携し、支保工のねじれを防止するため水平筋かいを支保工頭部と1層おきくらいに設けることが望ましい。
- 二) 支柱頭部と受けばりは、相互に有効に固定する。



平面図

A-A 側面図

3) 両側の橋脚に支柱を定着できる場合

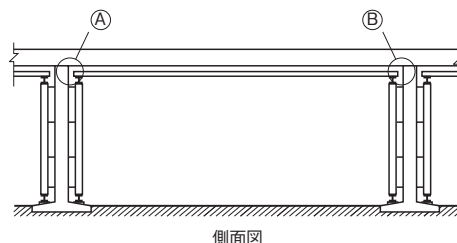
a) 支柱をA、B両側で定着できる場合

橋下に空間を確保したい場合には、橋脚基礎コンクリート上より支柱を建て型枠支保ばり(H型鋼)を受けることが多い、この場合(平面図①)支柱を1列に配置しているが、水平荷重に対し橋体横断方向(C-C側面図)は支柱群を一体化できる。しかし、縦断方向(A-A断面図)は水平荷重に対し抵抗するものがなく支柱自身も面外座屈を起こす可能性があるため、水平力の処置には十分検討する必要がある。

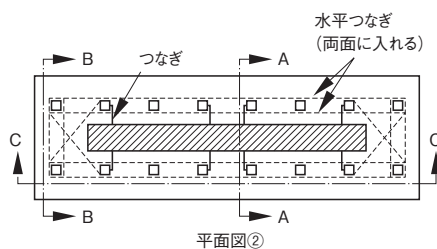


●横断方向の安全性

横断方向の支柱構面は、橋体スパンの1/2部分に対応する水平つなぎを負担できるような水平つなぎ、筋かいを用いて支柱群を一体化する。(平面図②及びC-C側面図参照)支保ばりの柱に橋台などを利用する場合は、特別に横断方向の安全性保持の措置は必要でない。ただ、支保ばりと受ばりとの間の固定を忘れてはならない。



- イ) 支柱脚部は、基礎に固定し滑動しないようにする。
- ロ) 支柱がねじれないよう水平つなぎは支柱の両面に、ユニット柱連結部ごとに設ける。
- ハ) 筋かいは何区分かに分けて配置し、支柱の両面に設ける。
- ニ) 支保ばり、受ばりおよび支柱は相互に有効に固定する。



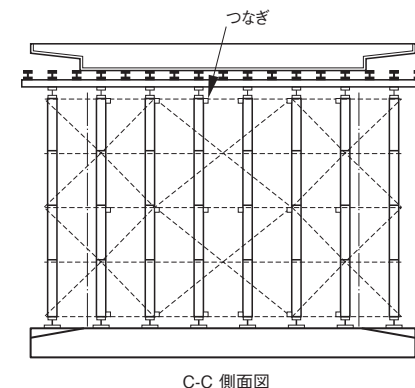
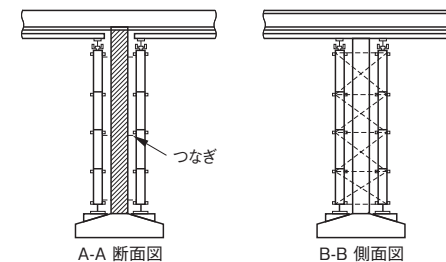
●縦断方向の安全性

縦断方向の支柱は、(A-A断面図) 独立して鉛直と水平荷重を負担しなければならない。支保ばりが橋の全長にわたる連続物として、その両端を橋台、橋脚などに突張り固定することが可能であれば前記(二)の措置をとれば縦断方向の安全性は確保できる。

しかし、支柱が高い場合は橋脚などよりつなぎをとり、支柱の座屈を防止するような措置が必要である。

支保ばりなどが固定できない場合は、縦断方向の安定性が重要になり、この場合の対策は次のとおり。支柱をA、B両側で定着できる場合は、支保ばりのスパンの1/2の部分に対応する水平荷重に安全に抵抗できるよう支柱面の頭部、足部および中間部を橋脚などにつなぎをとり固定する。

- イ) つなぎ材は引張り、圧縮力に十分耐えられ、支柱にクランプなどで固定できるものが良い。
- ロ) つなぎ材は、ユニット柱の連結部近くより支柱に固定する。必ず水平つなぎが設けられている箇所とする。
- ハ) 支保ばり、受ばりおよび支柱は相互に有効に固定する。



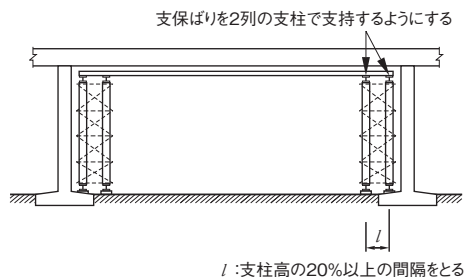
b) 支柱を片側のみ定着できる場合

- イ) 支保ばりのスパンの全水平荷重に抵抗できるように支柱の頭部、足部および中間部を橋脚などにつなぎをとり固定し安定性を高める。
- ロ) 取り付け方法は堅固なものに依託する。
- ハ) 支保ばり、受ばりおよび支柱は相互に有効に固定する。

c) 支柱をA、B両側で定着できない場合

支柱を2列に配置し、水平つなぎ、筋かいをとり、支柱群を一体化し支保ばりのスパンの1/2の部分に対応する水平荷重に安全に抵抗できるようにする。

- イ) 支柱面を2列にした間隔 l は、支柱高の20%以上になるよう離す。
- ロ) 支保ばりは、2列の支柱にまたがらせるようにする。
- ハ) 支保工全体のねじれを防止するため、水平筋かいを頭部および中間部に有効に配置する。
- ニ) 支保ばり、受ばりおよび支柱は相互に有効に固定する。



■ 橋脚間の中間に支柱を建てる場合

橋脚間のスパンが長い場合、支柱を橋脚の中間で受ける。この場合、支保ばりは不連続で支柱を2列に配置して支保ばりを安全に受けると同時に全スパンの1/2の部分に対応する水平荷重に安全抵抗できるように水平つなぎ、筋かい、水平筋かいを設け支柱群を堅牢に組む。

● 横断方向の安全性

横断方向は支保工構面の幅が縦断方向より長いので支柱群の安定性を確保しやすい。

- イ) 支柱がねじれないよう水平つなぎ支柱の両面に、ユニット柱連結部ごとに設ける。
- ロ) 筋かいは何区分かに分けて配置し、支柱の両面に設ける。

● 縦断方向の安全性

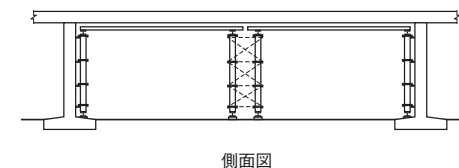
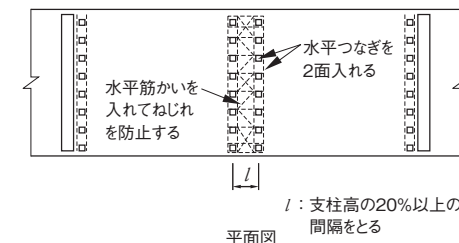
縦断方向は横断方向に比べ幅が狭いので、この方向の水平荷重に対する安定性の確保の検討が必要である。

- イ) 水平つなぎ、筋かいは支柱2面に、ユニット柱連結部ごと取る。この場合、筋かいは支柱2本にしかまたがらないので自在クランプの強度で決まるため注意する。
- ロ) 支柱面を2列にした間隔 l は支柱高の20%以上になるよう離す。
- ハ) 支保工全体のねじれを防止するため、水平筋かいを頭部および中間部に有効に配置する。
- ニ) 支保ばり、受ばりおよび支柱は有効に固定する。

● 橋脚部の支柱(3)項のa)、c)の措置を講ずる。

支柱をAB右側で定着できる場合及び定着できない場合の項の措置を講ずる。

以上支保工の安定性確保について記したが、自立性に乏しい支柱を水平つなぎ、筋かい、水平筋かいを有効に配置し、水平荷重に対していかに抵抗させるかがキーポイントである。



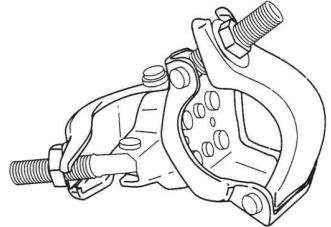
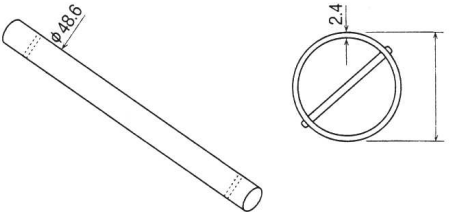
7. 組合せ表

● 軽量四角支柱の組合せ表

ユニット柱の組合せ					ユニット柱とジャッキ(SSJL-55)と梁受金具(SSUL-31)の組合せ					
SSL-65 (650)	SSL-125 (1250)	SSL-200 (2000)	SSL-225 (2250)	SSL-300 (3000)	高さ L[mm]	重量 [kg]	高さ(mm) (L+SSJL-55+SSUL-31)	重量 [kg]	高さ(mm) (L+(SSJL-55)×2+SSUL-31)	重量 [kg]
1					650	14.1	931~1221	43.4	1191~1771	65.7
	1				1,250	22.1	1531~1821	51.4	1791~2371	73.7
2					1,300	28.2	1581~1871	57.5	1841~2421	79.8
1	1				1,900	36.2	2181~2471	65.5	2441~3021	87.8
		1			2,000	31.1	2281~2571	60.4	2541~3121	82.7
			1		2,250	33.5	2531~2821	62.8	2791~3371	85.1
		2			2,500	44.2	2781~3071	73.5	3041~3621	95.8
1		1			2,650	45.2	2931~3221	74.5	3191~3771	96.8
1			1		2,900	47.6	3181~3471	76.9	3441~4021	99.2
				1	3,000	41.8	3281~3571	71.1	3541~4121	93.4
	1	1			3,250	53.2	3531~3821	82.5	3791~4371	104.8
	1		1		3,500	55.6	3781~4071	84.9	4041~4621	107.2
		3			3,750	66.3	4031~4321	95.6	4291~4871	117.9
			2		4,000	62.2	4281~4571	91.5	4541~5121	113.8
		1	1		4,250	64.6	4531~4821	93.9	4791~5371	116.2
			2		4,500	67	4781~5071	96.3	5041~5621	118.6
		2		1	4,750	77.7	5031~5321	107	5291~5871	129.3
		1		1	5,000	72.9	5281~5571	102.2	5541~6121	124.5
			1	1	5,250	75.3	5531~5821	104.6	5791~6371	126.9
	1	1	1		5,500	86.7	5781~6071	116	6041~6621	138.3
	1		2		5,750	89.1	6031~6321	118.4	6291~6871	140.7
				2	6,000	83.6	6281~6571	112.9	6541~7121	135.2
		2	1		6,250	95.7	6531~6821	125	6791~7371	147.3
		1	2		6,500	98.1	6781~7071	127.4	7041~7621	149.7
			3		6,750	100.5	7031~7321	129.8	7291~7871	152.1
		2		1	7,000	104	7281~7571	133.3	7541~8121	155.6
		1	1	1	7,250	106.4	7531~7821	135.7	7791~8371	158
			2	1	7,500	108.8	7781~8071	138.1	8041~8621	160.4
	1	1	2		7,750	120.2	8031~8321	149.5	8291~8871	171.8
		1		2	8,000	114.7	8281~8571	144	8541~9121	166.3
			1	2	8,250	117.1	8531~8821	146.4	8791~9371	168.7
		2	2		8,500	129.2	8781~9071	158.5	9041~9621	180.8
		1	3		8,750	131.6	9031~9321	160.9	9291~9871	183.2
				3	9,000	125.4	9281~9571	154.7	9541~10121	177
		2	1	1	9,250	137.5	9531~9821	166.8	9791~10371	189.1
		1	2	1	9,500	139.9	9781~10071	169.2	10041~10621	191.5
			3	1	9,750	142.3	10031~10321	171.6	10291~10871	193.9
		2		2	10,000	145.8	10281~10571	175.1	10541~11121	197.4
	1			3	10,250	147.5	10531~10821	176.8	10791~11371	199.1
			2	2	10,500	150.6	10781~11071	179.9	11041~11621	202.2

(注) 1. ユニット柱とジャッキの組合せ時の重量には梁受金具SSUL-31:7kgを含む
2. 表面処理:溶融亜鉛メッキ

8. 構成部材

直交クランプ ・ 自在クランプ	
単管パイプ	
ブルマン	